

株式会社エクサウィザーズ
第 9 回定時株主総会 株主様からのご質問

本定時株主総会の開催にあたり、株主の皆様から事前にお寄せいただいたご質問及びご来場の株主様からいただいたご質問について、以下のとおり回答とともにその要旨を公開します。

なお当社が、ご質問の内容について、個人のプライバシーを侵害する可能性があると判断した場合、本定時株主総会の議事とは関係が薄い内容であると判断した場合、ご質問者様以外の権利・利益を侵害するおそれがあると判断した場合その他の公開することが不適切であると判断した場合は、ご質問原文の修正、回答記載の差し控え等を行っております。また、複数の質問と回答でその趣旨が同一であるものについては、記載内容を集約しております。

【インターネットを通じて事前にお寄せいただいたご質問】

1	<ul style="list-style-type: none"> ● 役員構成は取締役 6 名、監査役 3 名であり、そのうち、女性役員は 1 名のみ、かつ、社外からの起用となっているが、今後、社内から女性取締役などを起用する考えはあるのか。女性管理職の登用を含めた貴社の人材育成の計画と合わせて教えて欲しい。 ・ 人材育成計画について、当社では EYC (Elevate your craft) を Credo のひとつに掲げ、人材開発を重要な経営課題と捉え、特に若手社員の育成に注力している。新卒社員に対しては、入社直後からエンジニアは 3 か月間のハッカソン、ビジネス職は 1 か月間のビジネス理解やスキル習得、エンジニアリングや生成 AI を実践的に学べるカリキュラムを用意し、早期戦力化を図っている。また、重要な職種においては人事・上司・育成担当が連携し、若手社員の成長をきめ細かくモニタリングする体制を整えました。加えて、今年度はマネージャー層の育成にも注力し、研修内容の拡充を予定している。 ・ 女性管理職の登用について、まずは女性社員の割合を高めることが急務と認識している。現状、女性社員は全体の 20%弱に留まっているため、採用強化や女性社員同士のネットワーキング支援等を通じ、将来の管理職候補となる人材の拡充に取り組んでいる。 ・ 役員人事に関しては、性別に拘らず多様なバックグラウンドを持つ優秀な人材を登用していく方針である。そのためにも、多様な人材を引き付け、働き続けやすい環境づくりを推進していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状の会社の株価水準についてどう考えているか。また、株価向上に向けて、どのようなアクションを取る予定か。 ・ 経営陣としても、株価のことはしっかり意識しており、現状の水準で満足していることはなく、より一層の業績の拡大をめざし、2025 年 3 月期は生成 AI 周りに投資は継続しつつも、連結営業利益では 2 億円の黒字化を予想しており、当社としては開示した利益計画、そして売上高の高成長を着実に達成していくことで、株式市場からの信任を獲得していきたいと考えている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● AI に関しては世界の大企業がしのぎを削る分野かと思うが、貴社の規模の企業がどのように勝ち残っていけるのかを教えて欲しい。 ・ 当社は創業以来一貫して様々な AI、ディープラーニング技術、近年の生成 AI 含めて、多様なアセットとプロダクトを保持しており、これらを活用して個別企業の経営課題や DX の達成、ひいては幅広い企業の業務生産性の向上を支援している。 ・ ご指摘をいただいた AI を手掛けるような大企業は、主に AI の基本技術やプラットフォーム、半導体などの上流の分野で、グローバルな投資と事業展開を優先的に進めているため、そういった AI 関連の大企業

	<p>と、当社が展開する事業の分野は直接競合するものではないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当社は個別企業の業務生産性向上の課題に向き合っていくことで、着実に事業成長を遂げていきたいと考えている。
--	--

【ご来場の株主様よりいただいたご質問】

1	<ul style="list-style-type: none"> ● IPO 当時から株式を保有しているが、まだ赤字が続いている。当社の強みは生成 AI であり、時代は追い風のはずなので、次回黒字にするという決意をいただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 足元はご指摘の通り追い風である。当社の業績の特徴として上期が弱く下期偏重となる季節性があるが、早めにこの傾向も解消していきたい。今期も第 2 四半期、第 3 四半期と改善が図れば、今期の予想としての営業利益 2 億円も達成できるだろう。なお、業績予想自体は、当社としての決意であるのご認識いただきたい。私（春田）のみならず従業員一同でその達成にむけて努力していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 配当/株主還元はどれくらい利益が出たら実施する想定か。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 配当について、足元ではまず低水準な株価を改善させることを第一優先として考えたい。株式会社として配当を出すことが普通の状態であり、当社としてもその状態に持っていきたいと考えている。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 知名度向上のための施策を検討・実施しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 知名度向上についても、定期的にブランド認識度調査等を実施しており、現状で悪い結果が出ているわけではないが、一般のお客様には届きにくい状態ではあるため、営業にも好影響を与えるべく、取り組んでいきたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● （ご要望）株主総会に毎年出席したいと考えているが、今回は集中日の午前なので、午後か夕方にして欲しい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日について、当社としてあえて集中日を開催日として設定しているわけではないが、できるだけ多くの方がご参加いただけるよう、いただいたご要望につき検討する。
5	<ul style="list-style-type: none"> ● 今期黒字の業績予想を出しているが、利益の回収期にフェーズが変わってきたということか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現時点ではまだ利益の回収期の手前の成長期の認識である。しっかりと収益を上げるべき事業と新規の投資を行うべき事業の両方に、バランスよく取り組む必要がある。
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の展望をどう考えているか、新貝取締役伺いたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ （新貝取締役）当社の exaBase Studio は、「情報をつなぐ、使う、ためる」というコンセプトの実現を通じて、ユーザーそれぞれがよりクリエイティブな仕事に集中するための環境を整えるための画期的なサービスであると自負し、期待している。
7	<ul style="list-style-type: none"> ● 石山氏について、当社の代表取締役社長を退任後に NTT Docomo 社の事業で CAIO を兼任しているとのことだが、当社への関与が薄くなっているということか。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 石山氏の幅広い知見は当社にとって非常に重要であり、引き続き当社で業務を推進してもらっている。現在は Chief AI Innovator という肩書の下、主に大企業の顧客を中心に AI の利活用等に関する支援を担当しており、その過程で本件の CAIO の兼任の件の打診があった。利益相反の観点等は留意しながら本件を進めているため、ご安心いただきたい。
8	<ul style="list-style-type: none"> ● 取締役には株を持っていただきたいと考えるが、会社の方針を伺いたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 取締役による株式の保有について、ストックオプションを含めて株式の付与は行っている。

9	<ul style="list-style-type: none"> ● 当社の知的財産戦略と特許の取得状況について教えて欲しい。 ・ 当社が創出した知的財産を社内外で活用できるようにするという知的財産戦略の元、AI プラットフォーム事業においては、受注した案件のほぼ全てにおいて当該戦略に沿った適切な内容で契約を締結している。また、特許の取得についても、知財の専門家を社内に確保しており、着実に進めていく方針である。
10	<ul style="list-style-type: none"> ● 招集通知 28 ページに記載の連結純損失について、減損損失 382 百万円の影響が大きいようだが、減損損失の具体的内容を教えて欲しい。 ・ 主なものとして、AI プロダクト事業に関連して過去に開発し、低収益だったものでの減損損失が 164 百万円、第 4 四半期での構造改革の過程で、AI プラットフォーム事業及び AI プロダクト事業に関連するソフトウェア資産等で、収益性などの観点で 178 百万円の減損を計上した。
11	<ul style="list-style-type: none"> ● Word/Excel のようなレベルで AI が普及し必需品になるのにどれくらいの時間がかかると考えているか。 ・ 事例があることで AI の導入は一気に進むため、プロダクトの利用シーンを多く作ることが重要である。足元では生成 AI の音声技術も進化し、自然な会話でやり取りすることも現実味を帯びてきたため、例えば、要員確保が困難な昨今のコールセンター業務等を AI システムで代替できると、事例としてもインパクトが大きい。明日から劇的に AI が普及していくということはないが、これは 5～10 年ではなく、もっと短いタームで実現すると予想している。 ・ また、お客様自身がどう変わっていくかも重要である。ただ AI を導入して業務効率化を推進するだけではなく、その結果生まれた余剰時間で別の業務をこなし、生産性を高めていくことが重要であり、当社としても、そのように投げかけながら、その期待に応えられるサービスを開発する必要がある。
12	<ul style="list-style-type: none"> ● 業績拡大期の重要な時期に代表取締役の春田氏が社外取締役を 2 社兼任していることは、コミットメントの観点でどうか。メリットをどう整理しているのか。 ・ コミットメントという観点では、適切に調整できている。また、大会社の役員を兼任することで、様々な分野の理解や知見が深まることも多く、業績拡大に役員兼任の経験は寄与していると考え。なお、私自身は、今後兼任を増やすことは考えていない。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 社外取締役の新貝氏は、社外取締役 4 社兼任しており、一般的に兼任数は 3 社程度が限度だと考えている。兼任に関して目安はあるか。 ・ 社外取締役の兼任については、当社内の一定のルールの範囲内で、各役員に任せており、適宜報告いただき問題ないことを確認しながら運営している。新貝氏の兼任については、取締役会への出席率は 100% であり、先述の通り事業を細かく見てもらっており、役員兼任の状況として問題があるとは考えていない。
9	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、社外取締役にプロ投資家出身やアナリストなどを招聘する考えはあるか。 ・ 私自身、他社でも取締役を経験し投資家やアナリストと接点を持っていることも多く、必要に応じて招聘する場合もあるとは思っているが、現時点では具体的にはない。
10	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業内容が一般の株主には理解が難しいため、より分かりやすい説明をご検討いただきたい ・ 個人投資家向け説明会を定期的に開催しているが、なるべくわかりやすく伝えるよう説明内容を試行錯誤しているところである。今後ご理解が深まるように様々な手法・やり方を参考にしながら、改善していきたい。
11	<ul style="list-style-type: none"> ● 売上高に対して原価率が低い一方で、販管費の比率が非常に高いと感じている。先行投資などにかかる費用があると説明があったが、先行投資に関わる比率、内訳を教えてください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別の先行投資の比率などはお答えできない。ご指摘のとおり、販管費の人件費が高いのは事実である一方で、足元ではAIプラットフォーム事業の収益性が改善してきている。 ・ AI プロダクト事業はようやく利益が出るようになってきた。マーケティング施策として一定の広告宣伝費がかかるものの、当社の場合は大企業顧客を中心に事業を展開しているため、一般のプロダクトの会社よりは低く抑えられている。
--	--

本資料の取り扱いについて

- ・ 本資料は、当社への理解を深めていただくために、情報提供のみを目的として当社が作成したものであり、日本国内外を問わず一切の投資勧誘またはそれに類する行為を目的として作成されたものではありません。
- ・ 本資料に含まれる業績予想等の将来に関する記述（当社の事業計画、市場規模、競合状況、業界に関する情報及び成長余力等が含まれますが、これらに限られません。）は、本資料の発表日現在における当社の判断及び利用可能な情報等に基づくものであり、将来の業績等を保証するものではなく、様々なリスクや不確実性を内包するものです。実際の業績等は、環境の変化などにより、予想と異なる可能性があることにご留意ください。
- ・ 当社は、本資料の発表日以降、本資料に含まれる情報に変更または変動があった場合であっても、本資料の記述を更新または改訂し公表する義務を負うものではありません。
- ・ 本資料には、当社の競争環境、業界のトレンドや一般的な社会構造の変化に関する情報等の当社以外に関する情報が含まれています。当社は、これらの情報の正確性、合理性及び適切性等について独自の検証を行っておらず、いかなる当該情報についてもこれらを保証するものではありません。

以上